



ふらふらのあまの生方を言ふ時不  
夜も危難を極むる九命御多  
五也を心まぬる新ま成子成るの  
併身ありと

号しころきく 今下は深路の極み  
しき切枝六字とはある

非難あり

○信解子信子 泰孝 信所のそとある  
うらみしうあり 信は云に

南を河原院信

銘云

一伸痛棒の契義杖製部  
三人凜水下 昔徳忍銷録

と下り 輪の心  
七サ六人 四り 一入深  
社在 階層 杖  
一前かまじいなり 一前

母身木

五折の字

了心七折

五折の中興  
河川急流の  
永林寺  
二折の字

五折の字  
古折の字

松平 彦人

家康 巧  
巧

乃

乃

乃

五折の字  
五折の字

門 3  
號 3331  
卷



十一日てぬが... 甲斐のやどりをとて  
らゆをよまへてくはれはむ 桂りの川はの  
るのよまへてくはれはむ 桂りの川はの  
うへに... 甲斐のやどりをとて  
桂の枝の... 甲斐のやどりをとて  
とてくはれはむ 桂りの川はの  
を甲斐のやどりをとてくはれはむ  
甲斐のやどりをとてくはれはむ  
くはれはむ 甲斐のやどりをとて  
くはれはむ 甲斐のやどりをとて  
くはれはむ 甲斐のやどりをとて

小山田文彦

昭和二年五月二十日  
田原早苗  
昭

川らうのふるまとも膝のいとよ即のま  
しるまがう起るのむらう膝ののま  
ぐらうまきまぬまのぬらうこののまか  
つらうのまそんすら井一のぬらうおほく  
まのまもまらぬらうまらぬらうまらぬらうま  
つらうらうませぬらうまらぬらうのぬらうま  
まらぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう

ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう

大目まらぬらう

ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう

ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう  
ぬらうまらぬらうまらぬらうまらぬらう











あゝはらのわりの 沙耶姫のちのちのち  
うのちし定例しよもあたらしきし  
ちぢららほしきしににりるよ  
うはのちしあつてふし 軽しきを  
つぎからいむあつていあらんと  
くすのちしあつてふし 軽しきを  
ししよもあつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを

せいのちのちのちのちのちのちのち  
あつてふし 軽しきを

あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを

あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを  
あつてふし 軽しきを



△ミエツ  
月すのよ

そわよぐうそ米穀を権一ちわを  
食ふもよしと有り大目の食の兵助  
男といをあるも部内の親友子人を  
從一自と自欲とありをゆらねて  
そのいりよわはたよりのものとあり△  
助飼の多るなり 研部 兵助とて  
村見のさか高とあり 研部とて  
せり子居つことそわわ 後おのあり  
りの噂部とて 乱妨 狼藉とて物も  
より 存すのさの 研部とて 研部とて

さこ武を 研部とて 研部とて  
みえりここここここここここ  
中村とて 研部とて 研部とて  
岩村の陣をま 守死やりとある 兵  
ゆらとて 研部とて 研部とて  
助核の野の石の方の 研部とて 研部とて  
ちこのさか高とて 大戸とて 研部とて  
松江の社を 研部とて 研部とて  
子あり 研部とて 研部とて 研部とて  
表ら 研部とて 研部とて 研部とて



公印持のまがう 所記 一うかの故の左  
の才を興養社の社あり 赤いの上と  
方と江戸との半まき ころ方て廿五里  
つちりともうし 板をさくくさわん  
すばらけのまあり 及のつくと 祝きき  
女のたよりあつと 清いあもるやの碑  
戦うりやうりしあま 海のぬきやとる  
ナあらぬとく 阿まのやうととる  
目には進分たよよ 而ととく 進ちん  
甲つ駒おとつて 駱の伊を 相摸きとく

田く及はあし 聖徳をまの ぼ馬つ甲  
物みの目 駒は 甲馬駒の 甲まきととる  
とちん せまきとく だげまよ 夫まの 板  
とていともあし ちまの 左のまよ はんりお  
はけはとく 一うりうりともあつと せんま  
く ぬききうりく ちまのあしと ちまの ねと  
ましつちまのまき けつちまのや ぶまき  
のまよとあし 甲のまよ こしとと ころりともあ  
ものあうし けまき 甲まて 干して ころり  
ととりしとく 甲まの 一ととる ころりはう

五七きちうしとやよものりかあふ  
 才なる新とあふやなりとくし  
 備其そとくけ崎げりくくしり三  
 ざらうしあふんぬりるしカ併下  
 しとまてていさうきくるしき  
 かくれれを駒飼の野ありし  
 門のけりちりさくし  
 田野 天目山のうさし  
 赤白勝れカ山の左まほけうのあふよ  
 子てまゐりのあふし  
 かなんか

かしりりしとカう約をまきし  
 崎を推しえ駒とくし  
 ありまきし駒立し  
 駒飼し駒立し  
 婦 子息傍將天目山  
 忠子 越後 一益父子の目と  
 うそわもはつりし  
 勝の才の留まなふも  
 朱印をゆるし





師如事わそきそらら家ののちふし 修験志  
依りたてていひありし四国朝命なりと  
そのそらるをたしつらひのたふきまの  
たてしりらそららるるを如何別部を納  
まらふことなり 腰尻粟子なりと  
るるにともれぬいまは林すのさきと塔の  
なしくさ塔のつてとをわらそきまふし  
—  
鳥林さふ — — —  
ふのあらうきとたのふらふのふらふらうき

何はリトモイハレ

つらきとら 伊波の野え 伊波の信き  
うけなふと路じ 高橋洋 けさあられ  
まのりた海の子こし 信きまふりま  
しあは とうけのあをばはらけりし甲の  
軍路まきもとらはを西のたつたら  
陣をありし甲のけん 甲の四方の所し 概  
らあれのこをたれと けの雲ふらうと  
もあはれしはゆれをたれ けの雲ふらうと  
あをたれし 城地ら今なきは とも存  
のあをたれし 高橋洋をたれし とも存

甲考のりす  
つらきとら  
たの木の  
山のうお  
中の酒折  
ふあ

新玉新町  
この煙草も  
とらふか  
やうに

ついでに鷲ヶ川と壺屋川の居右の  
しづかもさうしていづつ子並崎  
のまやうをさしやうに  
はらうのりぬ並崎のやうに  
西も子並崎のやうに  
て石壁の下むねまよへて  
まよへてつとてかまよへて  
まよへてつとてかまよへて  
まよへてつとてかまよへて  
まよへてつとてかまよへて

石

つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて  
つとてかまよへてつとてかまよへて

A



ころあゝよふたれとよまはらるるを  
 ともよぶもののけあまそんぢぢぢ  
 了り木けの信ふしは物事の多き  
 白雲のいほをさすり又その雲が  
 無しはさるいさびとせしめと  
 たりてさやりの因あらんや  
 つゆ本舟のまはせさるそ茅か  
 けけりてさるまらさるる  
 けけりてさるまらさるる

あい浜方の山まわりの  
 以上おのろとらるる左の京の回  
 のちのめらりよと海方のみや  
 々之上葉あられ葉あらしと  
 の海うやまらさるる  
 ナ互能なるわりの下り  
 ほらうももくなふはめらるる  
 山々ささるるもらるる  
 此海のいせと

景文



村より子儂子たつし梅屋とてま  
 い梅屋とあるりあるとつれも  
 りあるはこれとあるりあるとつ  
 して存する井のくちまをま  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ  
 りありありとつれとつれとつ  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ  
 りありありとつれとつれとつ  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ

本音の本音  
 本音の本音  
 本音の本音

りありありとつれとつれとつ  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ  
 りありありとつれとつれとつ  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ  
 りありありとつれとつれとつ  
 正三方におりありこつれとつ  
 ちわぬきを存せりこつれとつ

しるる中に おどり 物成 存のきりるる  
初るのまを 移して かな 存のきりるる  
存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる  
存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

きりるる 存のきりるる 存のきりるる

存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

存のきりるる 存のきりるる 存のきりるる

中宮右大臣  
三十九

年ん 中宮右大臣の せいのまの せいのまの  
よあつし 中宮右大臣の けりまの けりまの  
とよの 中宮右大臣の けりまの けりまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

中宮右大臣の せいのまの せいのまの

廿三のてい... 河原のともえくせ...  
にるおのな... ちか...  
まじぢ... けい...  
とち...

はな... けい...

あ... けい...

し... けい...

い... けい...

し... けい...

ふ... けい...

犬... 長... 三... 元... 赤...

す... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...

あ... けい...









△ア  
つ  
あ  
い

つてりきりまをゆく左のり  
天神らそを石のくは  
ききあり一勝ら  
ゆあふありい  
みもる  
あやの  
うん  
鳥  
あ  
と

まが  
四国  
今  
よ  
つ  
は  
か  
た  
ま  
あ





南の所  
かき  
かき

いんちあつちのつま川 物まのぬん  
わしけおとちんよ

いんちあつちのつま川 物まのぬん

わらちり 軒 左のつま川 物まのぬん

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物

セウラふんせいふのあつちのつま川  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物

存のつま川 物まのぬん 今頃の物  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物  
存のつま川 物まのぬん 今頃の物

今もあつたるのそとにあらんとす  
 るものばかりもあつたる所あり  
 いくともいふことなしにあらむ  
 ともいふことなしにあらむ  
 今もあつたるのそとにあらんとす  
 るものばかりもあつたる所あり  
 いくともいふことなしにあらむ  
 ともいふことなしにあらむ  
 今もあつたるのそとにあらんとす  
 るものばかりもあつたる所あり  
 いくともいふことなしにあらむ  
 ともいふことなしにあらむ

かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす  
 かくもいふにあらむとす

三三三  
 三三三  
 三三三









のちのしんとまひりぬ

空は千をささる比まぬやちをきしむねん

何のちるさうにわつら南無の海か池島由

或やとれたとちのさあなれ聖智とて読む

おしとくくちりんとくさきとさむりて秋

圓のちるさうにまぬのわりあののちるしと

んじ

うりて聖白照とあつートまぬしと

朔と聖く甲ああのはじちあり余も

たじのちしとまらるゆま志心奥

くふーくふちいぬのちのあはしと

うけまらるあつとあつとん

らむとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちと

ゆにちとち 小山まあん

あつとちとちとちとちとちとちと

ちとちとちとちとちとちとちと

あはちとちとちとちとちとちと

あつとちとちとちとちとちとちと

あつとちとちとちとちとちとちと

君は賢多

善仁

石田長久

何者

世もくしくも世もくしくも  
しゆくともくしくも

剛止る大

鳥居誠之

来やふけの雨のふくや  
山ゆきもくしくも

草村故希大

榎田直緒

ふりくしくもくしくも  
ふりくしくも

逢西路似處

大木順

逢渡遺愛費特殊

新純澤久雨愈厚花中  
徳不孤露

乳猶加清潔意真  
岩波庸堅

風也蟬声

岩波庸堅

長もくしくもくしくも  
くしくもくしくも

行そくく

乃詩

うらんのくしくもくしくも  
くしくもくしくも

くしくもくしくも

山陰納涼

大木壽

新編深久雨餘南風正是入岸初夏

未為従矣聖若台名山漢水竹唐  
ふんせうく 実をさす

二日照りて水よりかきくぬるのほど  
百万兩の如恩寺ともあふ寺あり巨  
東の如く徳とす月の行るなり此  
結城の私語さし在聊一まあぬま  
つるも信作し人なくともせよを  
ほいてはわとあましおけし内役巨  
親と是なりしころもかへりし  
とてていかにせよめし

かか言のころに  
さすなり

深智上人の急

かか平重衡

の松はれうつのためわとよりしてあり  
うとたへていりありわたりし  
三日照り恩院祇園社、路の徳清水  
深智上人の如く大伴の如く  
寺東寺西ありしなり  
かか言のころに  
さすなり



の極木の角系を打て

合す  
み

の極木の角系を打てカクテ定道の傍に掃子神社掃子屋

可きさういふなりして(齋)をいふはよき  
一と云ふさういふ於に左の如きまらるる  
あはれ丹波のあまの山をたのこさ  
財のちよありとさす中可なるりたる  
む植民の社左角の初を移す  
はらうさういふいひのちすさし  
のちよありとさす中可なるりたる  
まよとまよいづりまよとまよいづり  
ありあはれとさす中可なるりたる  
さす中可なるりたる

ひーんんんんんんんんんんんんんんん  
あまの山のあまの山をたのこさ  
さす中可なるりたる  
あまの山のあまの山をたのこさ  
さす中可なるりたる

さす中可なるりたる  
あまの山のあまの山をたのこさ  
さす中可なるりたる  
あまの山のあまの山をたのこさ  
さす中可なるりたる



くさふいつあしそわはるるれ  
くちねしむらゆももきほほの梅川  
みもぬ酒らふりよとらさきし酒も  
くはりちとやくしやらうとわらび  
まのちあつゝあるさわいとふ  
たつ物よけりくまらぬを  
らりはきぬこよひらくさうや  
りん  
今の雨なぬきさしむら  
くもあふわらふしけあきらぬ  
あはれ

とふらひきく河わのまのうら  
かろくもほい大し本使らあ  
よへしきしつまらしから  
波の道 杉田道清あはれ  
まらうし 福岡の梅あ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ  
あふさあゆめらあふ



正徳  
二年  
春  
三月  
十日

三つありし 信守のちまふよあわねし 何れも  
とめりやめりやうれ  
こほらるもたまふよとむらさきささくうれを  
のち信守のちまふよあわねし 何れも  
しーのうし 信守のちまふよあわねし 何れも  
たふさくよさきよさきよさき 松田直靖のま  
わらうよさきよさきよさきよさき 小山若寛  
松室直雄 子藤誠之是幸 尚房とら  
まふよさきよさきよさきよさき 何れも

信守

九日 信守のちまふよあわねし 何れも  
とめりやめりやうれ  
こほらるもたまふよとむらさきささくうれを  
のち信守のちまふよあわねし 何れも  
しーのうし 信守のちまふよあわねし 何れも  
たふさくよさきよさきよさきよさき 松田直靖のま  
わらうよさきよさきよさきよさき 小山若寛  
松室直雄 子藤誠之是幸 尚房とら  
まふよさきよさきよさきよさき 何れも

西條  
 夏文家  
 所著の字  
 格三ノ目  
 丹川  
 分九

へこそはけい、うらみまじりの水とて  
 十日思ひ思はぬ山ありてあまも  
 せん心かなうらむづりてあまも  
 懐の形も好む

あまのうらみまじり、たるとも  
 のるころあまも

よさよとあまも、やちそ  
 くせしとん、うらみまじり  
 ナると思はぬの巨束とて

年音集の

瑞決身弘治海の刊刻

消息にれきの返状たの  
 なるにうらみまじり、

のらあまも、うらみまじり、

けうらあまも、うらみまじり、

のらあまも、うらみまじり、

けうらあまも、うらみまじり、







Reine der ...

店の上の ... 幅の ... 白路 ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...

おす ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...  
... 追ふ ... 追ふ ...





いしつわらふくさふぬのあらき  
あつちねおかうこま

あつちねおかうこま  
あつちねおかうこま

たせらぬ西天矯のふとのまの左のふ

浮瑞理こまの名塔ありしふたふた

りふまのふまのふまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

りくこ田中つるを二里さるる

笑のつ橋宮の初よりが丹国の玉

西天寺

ちねおかうこまのふまのふま

山ありしよるふまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

あつちねおかうこまのふまのふま

うら  
 かつらいつくはつとくきよくよきまはくも  
 のらふまにんふんふんふんふんふんふんふん  
 つら  
 かきふんふんふんふんふんふんふんふんふん  
 とくふんふんふんふんふんふんふんふんふん  
 くららららららららららららららららららら  
 ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら  
 けとけとけとけとけとけとけとけとけとけとけ  
 相后つとととととととととととととととととと

ありといふらありありありの西の方より新橋より河原

東の山と

台徳院殿の<sup>おの</sup>不<sup>の</sup>彌<sup>と</sup>  
 寺<sup>の</sup>と<sup>の</sup>池<sup>の</sup>田<sup>の</sup>  
 樹院殿 お平太師名、お親中名、松平和泉守  
 大船<sup>お平太師名、お親中名、松平和泉守</sup>  
 秀<sup>お平太師名、お親中名、松平和泉守</sup>  
 信元大居士 月堂  
 榊舟院殿 お平出雲守、松平長親公名  
 道開大居士 お平廣長、お平忠信、お平忠直、お平忠房名  
 善徳院殿 世良田次郎、三節、清康、松平大樹名

寺殿 徳川次郎三郎 廣志后後贈大納言法名瑞雲  
院殿相應通幹大居士後改贈慈老殿又改贈大  
 樹寺のハ代の事あり七層のほこなせ輪  
 大樹寺殿のハのほこなせ輪  
 本堂の扉に半鐘ありその銘に參州碧  
 海庄宇都郡福林寺奉鑄懸鴻鐘  
 一是右為天長地久御領日滿當知女  
 穩諸人快樂六道四生平等利益并諸  
 縁与力也仍所奉鑄如件 文和二年  
 癸丑月廿七日大檀那藤原于手九  
 大工河内目丹田郷藤原国安とありけ

はり西南の方一里ありてりり端のふとの河津院の



福林寺の鐘なりといふ徳

福林寺といふ  
 福林寺といふ

院殿の時時とあり、敵地ありとありけり  
 陣鐘を用いしとあり、宮内府にあり  
 とあり、はなはた鐵鳥銃の鉄丸なるありとあり  
 うへ山門に大樹寺とあり、而して後奉  
 良院天皇の宸翰に標とあり、くやふとあり  
 津の天祐山北方一里あり、あり、衣の城に  
 あり、あり、とあり、あり、とあり、古あり

の比ち相合なきありけり

糸  
神居の所  
はとまはつて  
一  
木の様も  
細く  
角  
て廿二  
食ら  
銘は後

南無阿彌陀佛  
籠頓裂却  
鑿  
忽  
神社  
古色  
去七月  
右  
三月



るやうなるのやうにもあるやうに  
つたやうにも伝わるやうの感じさう

とあるやうにうつくしいやうに  
二つとわかれあつたやうにうつくしい  
信じてあつたやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい

うつくしいやうにうつくしい

うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい

うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい  
うつくしいやうにうつくしい

くはさきたりざんのおもほれおきあ  
右のまあり一彦村のけいしうの川島  
のけいしう村のけいしうあり一彦村を  
るはせぬぬのけいしう村あり  
又けいしうのけいしうあり一彦村のけいしう  
けいしうのけいしうあり一彦村のけいしう  
くはさきたりざん

廿一日 其の井のちりしうありけ  
りしうのけいしうあり一彦村のけいしう  
のけいしうあり一彦村のけいしうあり



